



平成22年 10月 27日 (水)
国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所
東日本高速道路(株) 関東支社 さいたま工事事務所

記者発表資料

しゅ と けんちゆう おう れん らく じどう しゃ どう けん おう どう かわじまインターチェンジ おけがわきたもとインターチェンジ

**首都圏中央連絡自動車道(圏央道)川島IC～桶川北本IC
開通半年後の交通状況と整備効果をお知らせします。**

平成22年3月28日(日)に開通しました圏央道 川島IC～桶川北本ICまでの延長5.7kmについて、開通半年後の交通状況と整備効果をとりとまとめましたので、お知らせします。

<交通状況>

- 平成22年3月28日に開通した圏央道 川島IC～桶川北本IC間の開通後半年間の平均交通量は約7,000台/日(休日は約7,800台/日)で、順調に増加しています。
- 圏央道の開通半年後の利用交通量が、開通前と比べ鶴ヶ島JCT～坂戸IC間で約43%増加、圏央鶴ヶ島IC～鶴ヶ島JCT間で約11%増加しています。

<整備効果>

- 開通区間を利用された方にアンケート調査を行った結果、桶川北本IC利用圏域は埼玉県東部に大きく広がっているとともに、約5割の人が高速道路利用機会が増え、約2割の人が行き先が遠方になったなど行き先が変化したと回答しています。
- 桶川北本ICを利用した輸血用血液製剤の輸送は、開通後5ヵ月間で約450回、うち緊急輸送は4回発生しており、圏央道が人命救助に役立っています。
- 圏央道周辺に新たな企業が進出し経済波及効果や地元雇用の増加が期待されています。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ 埼玉県政記者クラブ 神奈川建設記者会

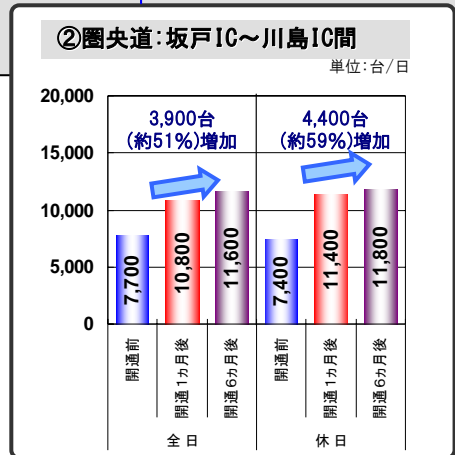
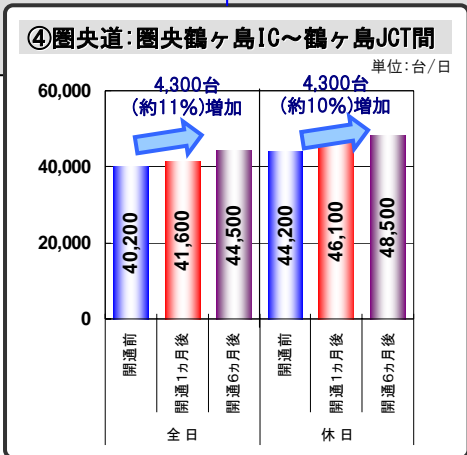
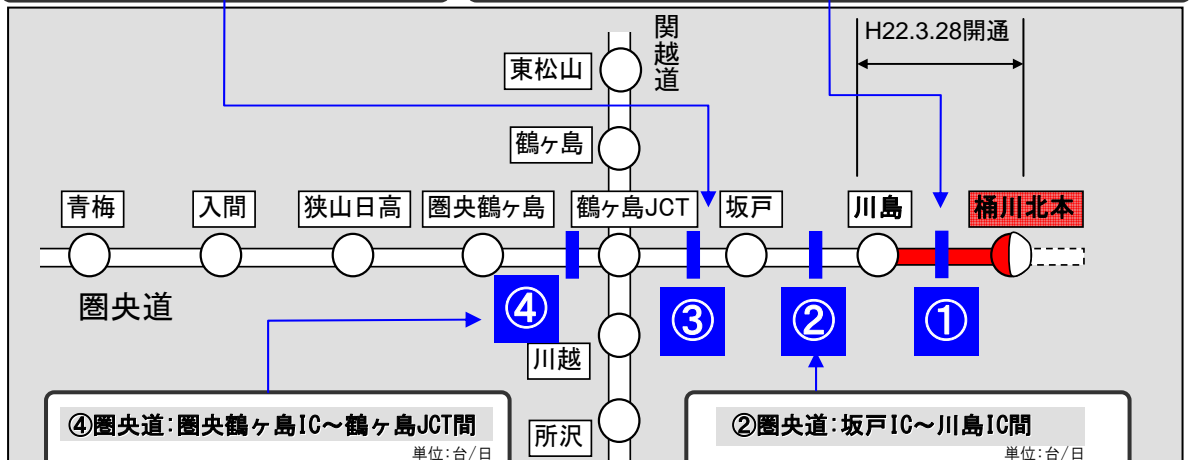
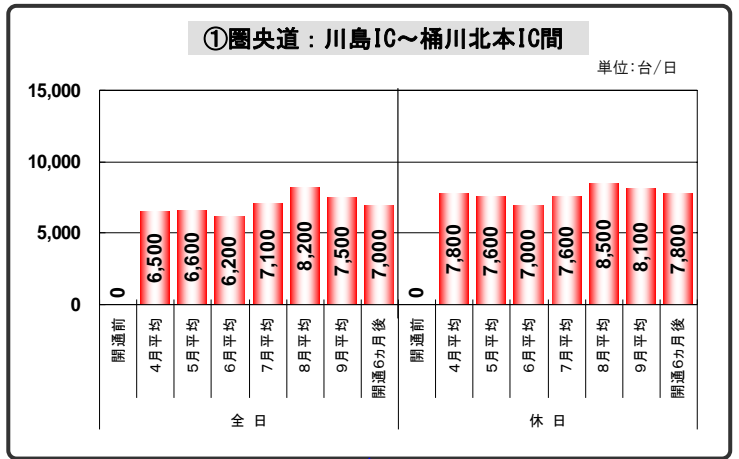
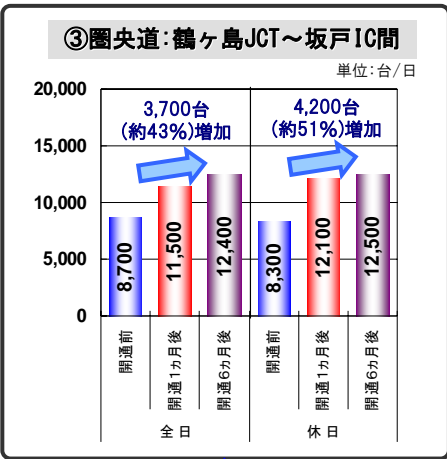
問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所					
副所長	菅野	かずのり	和典、計画課長	ごかん	ひろゆき
				後閑	浩幸
tel : 048-669-1200(代)					
東日本高速道路(株)関東支社 さいたま工事事務所					
副所長	佐藤	さと	あきら	ごとう	まこと
				後藤	誠
tel : 048-749-9620(代)					

圏央道の交通量

■平成22年3月28日に開通した圏央道 川島IC～桶川北本IC間の交通量は、開通1ヵ月後(4月)は6,500台/日(休日は7,800台/日)、開通後半年間の平均は7,000台/日(休日は7,800台/日)と順調に増加しています。

■圏央道の利用交通量が開通前(H22.2.1～H22.3.27の開通直前の2ヵ月間の平均交通量)と比べ、開通後半年間の平均は鶴ヶ島JCT～坂戸IC間で約43%増加、圏央鶴ヶ島IC～鶴ヶ島JCT間で約11%増加しています。



開通前の交通量：H22.2.1～H22.3.27

開通1ヵ月後の交通量：H22.4.1～4.30 開通6ヵ月後の交通量：H22.4.1～9.30 ※いずれも日交通量の平均値

図中増加交通量＝開通6ヵ月後交通量－開通前交通量

※交通量はETC車以外も含む全車種合計の断面交通量(トラフィックカウンター〔道路に備えつけられている交通量(概数)の自動計測装置〕による速報値。

桶川北本IC利用者アンケート

■ 開通区間を利用された方にアンケート調査を行った結果、桶川北本IC利用圏域は埼玉県東部に大きく広がっているとともに、**約5割の人が高速道路の利用機会が増え、約2割の人が行き先が遠方になったなど行き先が変化したと回答**しています。

■ 桶川北本IC利用者の出発地・目的地



桶川北本ICの利用圏域は、埼玉県東部に大きく広がっています。

🔊 圏央道利用者の声

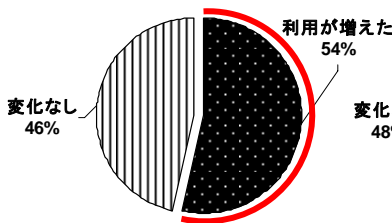
- ・初めて利用しましたが渋滞が避けられたし、時間短縮にもなったので、これから利用したいと思います。
- ・東北道や常磐道、東関東自動車道に早くつなげてください。
- ・圏央道がのびて多方面へ出かけやすくなりました。沼津まで、2時間で行けてびっくりしました。

注) アンケート対象: 圏央道桶川北本IC利用交通 (ETC車レーン以外の一般車レーン)
 調査日: 平成22年8月7日(土), 8日(日) 有効票数298
 9月7日(火), 8日(水) 有効票数264
 アンケート配布票数2,741
 回収票数562 回収率約20.5%

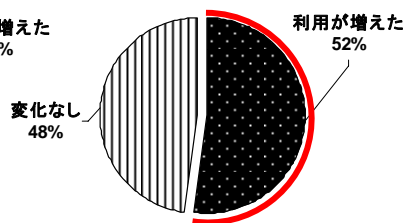
■ 高速道路の利用機会

「利用が増えた」が平日 約54% 休日 約52%

〔平日〕



〔休日〕

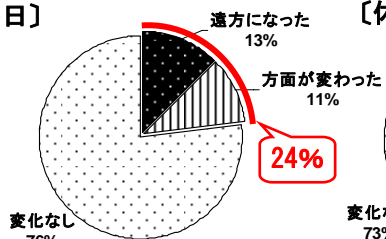


桶川北本IC利用者の約5割の方が高速道路の利用機会が増加と回答

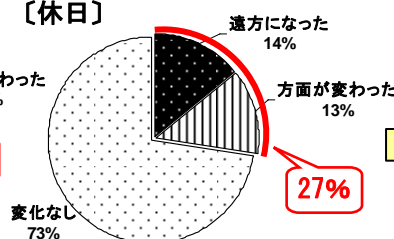
■ 開通後の行き先の変化

「遠方になった」「方面が変わった」が平日 約24% 休日 約27%

〔平日〕



〔休日〕



桶川北本IC利用者の約2割の方が遠方になるなど行き先が変化したと回答

輸血用血液製剤の供給体制の向上

- 圏央道に隣接する埼玉県赤十字血液センター(日高市)にて輸血のための血液製剤*1を製造し、県内の病院へ供給しています。
- 桶川北本ICの開通により、埼玉県赤十字血液センターからの県内の供給エリアが圏央道沿線地域に拡大しました。
- 桶川北本ICを利用した輸血用血液製剤の輸送は、開通後5カ月間(4月~8月)に約450回、うち緊急輸送も4回発生しており、安全で定時性の高い圏央道が人命救助に役立っています。

*1「血液製剤」: 献血された血液をもとに輸血に使用するために製造したもの。

輸血用血液製剤のうち「血小板」の使用期限は採血後4日間であるため、迅速な輸送が必要。

*2「第二次救急医療施設」: 入院や手術を必要とする重症救急患者に対応する病院。



注) 拡大エリアへの輸送回数、緊急輸送回数：平成22年4月~8月の実績値

企業立地の活発化

■埼玉県では、平成18年度から圏央道インターチェンジ周辺の産業集積を図るため「田園都市産業ゾーン基本方針」を作成し、7地区の先導モデル地区が選定され、産業基盤づくり、企業立地を推進しています。

- ・川島インター産業団地では全区画47haに18社の企業進出が決定し、5社が操業中
- ・菖蒲南部産業団地では全区画19haにおいても、全5区画中、4区画4社の企業進出が決定

■「田園都市産業ゾーン基本方針」(埼玉県)に基づく先導モデル地区

田園都市産業ゾーン

圏央道周辺地域(インターチェンジ、ジャンクションから概ね5kmの範囲の地域)において、工場や流通加工施設などを集積させるゾーン。



■田園都市産業ゾーン先導モデル地区 (第1次)

- 川島インター産業団地
- 菖蒲南部産業団地
- 川越第二産業団地

■田園都市産業ゾーン先導モデル地区 (第2次)

- 騎西城南産業団地

■田園都市産業ゾーン先導モデル地区 (第3次)

- 北本中丸9丁目地区

■田園都市産業ゾーン先導モデル地区 (平成21年度)

- 白岡菖蒲インターチェンジ白岡瀬地区
- 狭山柏原北地区

川島インター産業団地では全区画47haに18社の企業進出が決定し、5社が操業中

菖蒲南部産業団地では全区画19ha(全5区画)のうち4区画4社の企業進出が決定



平成22年7月20日撮影

平成22年7月20日撮影